

第十回 巨大山城・長野城址



無数の堀が築かれた長野城復元模型（国立歴史民俗博物館所蔵）

山間の地にある小倉南区長野。近年、豊かな緑、歴史を題材に長野緑地として整備され、多くの家族連れらが訪れている。だがその地がかつて、防御面で全国有数の規模を誇る優れた城跡だったことはあまり知られていない。

長野城は中世、この地の領主だった長野氏の居城。その重要性を世に知らしめたのは北九州市の城郭研究家廣崎篤夫氏（現北九州市の文化財を守る会会長）で昭和六十二年、城址に国内最大級の畝状

堅堀があることを発表した。ところが平成に入って大規模なゴルフ場建設計画が表面化。住民に危機意識、保存運動が高まって市教育委員会が平成四年度から7年がかりで本格調査し、全貌がほぼ明らかになった。

全国最大規模の畝状空堀群

それによると、長野城は標高237呎の山頂を中心にした馬蹄形の峰に本郭（本丸）、二の郭（二の丸）、三の郭（三

の丸）を配し、それぞれの郭や峰から斜面に畝状の空堀（深さ約2呎）を縦に築いていた。寄せ手はその畝沿いに列を作って這い上がらねばならず、防御側に有利。市立自然史・歴史博物館の中西義昌学芸員らによると、「戦国時代、多くの山城に築かれていたが、一つの山城に平均して70〜80条程度なのに長野城は実に248条。全国有数の規模」という。

城は長野氏が築いたものだが大友対大内、対毛利など戦乱が絶えなかった永禄年間、長野氏は馬ヶ岳城（京都郡）に去って長野城には高橋鑑種の一族が入った。「島津と同盟を結んでいた高橋、親族の秋月一党が豊臣秀吉の九州攻めに備え、最前線拠点として大規模畝状空堀群を築いたのではないか。しかし秀吉への降伏後、城は放棄され関係古文書も少なく、忘れ去られてしまった」と中西さん。

住民の願いは

国史跡に

その長野城を甦らせた住民団体が「長野城を考える会」。



長野城山中の貴重な自然 岩海

会長の長野氏菩提寺・護念寺前住職の萩原正之さん（76）ら地元住民がゴルフ場建設反対、城保存運動の先頭に立ち行政を動かした。長野氏については平家一族の平康盛が保元2年豊前国司として下向し長野氏を名乗ったとの説、治承5年に大宰府から地頭に任命された地元有力者中原助光がやがて長野氏を名乗ったのが始まり、との両説がある。萩原さんは「いずれにせよ、長野城は現実に残っている。やがて国史跡として後世に伝えるのが私たちの願いです」と訴える。

山中には天然記念物の価値もある花崗閃緑岩の岩海、洞窟群も確認されている。

シニアスタッフ 村田和夫